

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしやがしょうえん 有限会社瓦照苑		
代表者職・氏名	代表取締役 谷口拓司		
制作団体所在地	〒 662-0063		
	兵庫県西宮市相生町10-11		
電話番号	0798-55-7362	FAX番号	0798-55-7363
ふりがな 公演団体名	しゅくがわのうぶたいがしょうえん 夙川能舞台瓦照苑		
代表者職・氏名	代表 上田拓司		
公演団体所在地	〒 662-0063		
	兵庫県西宮市相生町10-11		
制作団体 設立年月	2004年 3月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 谷口拓司 取締役 谷口都志子 監査役 谷口宜照	実演家3名、事務局2名、事務局補佐1名 加入条件:能楽を職能とする者。または、それに準ずる者	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	松田法枝
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	田中幸子(外部税理士)

<p>制作団体沿革</p>	<p>2004年、能楽堂の経営事業として兵庫県西宮市相生町10-11に「夙川能舞台 瓦照苑」を開設。能楽の興行事業において、主催公演として「照の会」「観正会」を毎年開催。受託公演として、「賀茂川莊薪能」を毎年開催。その他、「大覚寺能」「淡路島薪能」「ひろしま平和能楽祭」「新居浜能」「西宮薪能」「播磨薪能」等、多くの催しを受託制作。 同年度より、能楽の教授事業として「入門教室」「個人教授」「子ども教室」「親子教室」「1日体験教室」を開講。 また、学校等教育機関や老人ホーム等でのワークショップを多数実施。 平成30年度 文化芸術による子供の育成事業一巡回公演事業一実施。 実演家団体としても評価されつつあり、2020年度文化庁芸術祭優秀賞受賞(照の会 ちかの会 大阪公演「蟬丸」の成果)。</p>						
<p>学校等における公演実績</p>	<p>平成16年度 舞囃子「融」公演(1公演)※淡路市内高校 平成20年度 半能「淡路」(1公演)※淡路市内高校 平成26年度 半能「高砂」(1公演)※広島市内小学校 平成30年度 半能「土蜘蛛」(2公演)※芦屋市内中・高校 平成30年度 ワークショップ(1公演)※西宮市内高校 令和元年度 能「羽衣」(1公演)※西宮市内大学、ワークショップ(1公演)※明石市内小学校 令和2年度 半能「土蜘蛛」(1公演)※明石市内小学校、半能「安達原」(2公演)※芦屋市内幼稚園、ワークショップ(2公演)※神戸市内小学校</p>						
<p>特別支援学校における公演実績</p>	<p>無し</p>						
<p>参考資料の有無</p>	<p>A</p>	<p>申請する演目のチラシパンフレット等</p>	<p>有</p>				
		<p>申請する演目のDVDまたはWEB公開資料</p>	<p>無</p>				
		<p>※公開資料有の場合URL</p>					
		<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:							
PW:							
	<p>Aの提出が困難な場合</p>	<p>今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料</p>					
		<p>※公開資料有の場合URL</p>					
		<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:							
PW:							

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 夙川能舞台瓦照苑】

対象	○	小学生(低学年)	○	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	～お面で変身！？～ 能楽鑑賞 狂言「仏師」・半能「大会(だいえ)」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>第1部 能と狂言ってな～に？<別添有(1)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの挨拶 ・能・狂言ってな～に？(能楽解説) ・狂言「仏師」のお話と鑑賞 <p>作者:河竹黙阿弥 上演形式:省略版 一問休憩10分</p> <p>第2部 半能「大会」鑑賞(プロジェクター投影による歌詞やイラスト解説付)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能開演の儀 ～謡に挑戦！老松を謡ってみよう～ ※舞台後方に歌詞を投影。 ・半能「大会」のお話と鑑賞 <p>作者:不詳 上演形式:省略版</p> <p>公演時間(100分) ※各校の時間割にあわせて多少前後します。</p>			
著作権	制作団体が所有	○	制作団体以外が所有する事項が含まれる	該当なし (制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	<p>狂言「仏師」あらすじ 自宅に御堂を建てた男は、仏師に仏を造ってもらおうと都に出かけ、仏像を「買いたい」と大声で言い回ります。すると自分は仏師だといっすつば(嘘つき)が近寄ってきました。男は大喜びし、早速仏像を注文します。次の日、完成した仏像を見に行った男。素晴らしい出来栄のその仏像、実はすつばが変装したもので…。 すつばの「仏師」と「仏像」の「1人2役」がわかり易く楽しい演目です。</p> <p>半能「大会」あらすじ お坊様に助けもらった天狗は、恩返しをしたいとお坊様の願いを聞き(省略箇所)、お釈迦様に化けて説法を始めます。それを見て、お坊様はあまりのありがたさに手を合わせて拝んでしまいます。すると、「正直なお坊様をもてあそぶとは何事か」と怒った仏教守護の神様「帝釈天」が駆けつけて、天狗をこらしめます。怒られるのが嫌な天狗は暫く争いますが、最後は平身低頭謝り、自分の住まいへ逃げ帰っていくのでした。</p> <p>『荘厳な釈迦仏の説法を真似た天狗の術』を帝釈天によって打ち破られ、天狗が正体を現す場面は、謡・囃子の緩急ある音楽性で表すばかりでなく、顔や髪の色、装束の色など、姿かたちからガラッと変わる為、非常にインパクトがあり、低学年にも分かりやすい演出となっています。また、後半の作り物(大道具)は釈迦如来の椅子「獅子の座」を表し、安易に表現すると、とても大きな椅子に座る天狗が大変偉そうぶっていることがわかります。故に、「偉い人のふりをして騙そうとした」という天狗の行為が児童に明確に伝わります。</p>			
演目選択理由	<p>①能楽面の掛け替えによって、仏や仏像になったり人間や天狗になったりするのは、視覚的にもわかりやすく、想像力を掻き立てるのに適しています。</p> <p>②両演目とも「仏(仏像)に変身して人を騙す」というテーマを持ちながら、全く違う雰囲気の内容に仕上がっていることで、日本文化の幅広さを実感させることができ、演目の上演時間も含め、低学年の児童でも楽しく鑑賞できます。</p> <p>③「かくれんぼ」を始めとして、子どもの遊びにも数多くの「騙す」要素があり、コミュニケーション・文化の一環として、それは排除できないものです。しかし、過度・悪質な「騙す」行為が「いじめ」「詐欺」につながることもあります。狂言「仏師」はコミュニケーションとしての「騙す」行為の面白さを、能「大会」は、本気で人を騙してしまふ詐欺を行った天狗が怒られる姿を見せ、「騙す」行為の危険性を伝えます。この二作品を比較することで、児童・生徒に、社会的に許容されている「騙す」行為のラインが「遊びの範疇を超えてはいけない」「相手の心が傷つく嘘はいけない」ということにあるのを伝え、コミュニケーション能力の健全な育成を図ります。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>①狂言「仏師」で、すつばが「仏像」に変装する時のお多福の面をみんなで作ります。そしてその面をつけて、ポーズを児童生徒に考えてもらい(事前ワークショップ)、実際の公演に取り入れます。状況により、ポーズをいくつか提示して、生徒に選んでもらう場合もあります。</p> <p>②薪能等でよく行われている「能開演の儀(能奉行舞台改め)」を共演します。代表者1名(教師または児童・生徒)が和装して能奉行に扮し舞台上がり、能奉行の合図の掛け声を聞いて、全校児童・生徒が祝言謡「老松」をシテ方と共に発表します。</p>			
出演者	<p>シテ方 上田拓司★、上田貴弘★、笠田昭雄★、藤谷音彌★、下川宜長★、山田義高★、藤井丈雄、上田宜照、笠田祐樹 上田顕崇 伊藤裕貴 等(上記他の中より、シテ1名、ツレ1名、後見・地謡6名)</p> <p>ワキ方 江崎欽次朗★ 等(上記他の中より、ワキ1名)</p> <p>狂言方 善竹忠亮 牟田素之 岡村和彦 等(上記他の中より、狂言2名、後見1名)</p> <p>囃子方 野口亮★、古田知英★、大村滋二★、中田弘美★ 等(上記他の中より、笛1名、小鼓1名、大鼓1名、太鼓1名)</p> <p>※★印は、重要無形文化財保持者(総合認定)</p> <p>※第一線で活躍する能楽師を軸としつつ、児童の舞台側に対する親近感を引き出す為、児童生徒の親世代前後の若手も織り交ぜ、また日程も考慮した上で、上記以外の出演者も用いて構成します。</p>			
公演出演予定者数(1公演あたり)	<p>出演者: 16 名</p> <p>スタッフ: 1 名</p> <p>合計: 17 名</p>	<p>機材等 運搬方法</p>	<p>積載量: 1 t</p> <p>車長: 4.7 m</p> <p>台数: 1 台</p> <p>※遠方の場合、コンテナ便による発送の可能性有</p>	

【公演団体名 夙川能舞台瓦照苑 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間			2 時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	10時	10時～12時	13時～14時40分	10分	15時～17時	17時
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		～200名程度			
	本公演		～500名程度			
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>「たのしくまなぼ！能・狂言」<別添有(2)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能楽の歴史解説から始まり、仕舞「高砂」鑑賞、「カマエ」「ハコビ」(能の基本の歩き方)等を体験 ・謡体験(本公演共演の稽古) ・能面体験(生徒代表者数名)・「大会」能面鑑賞とあらすじ解説 ・能と狂言の違いを鑑賞後、狂言体験にて本公演で採用する「ポーズ」の発案を募集 					
ワークショップ 実施形態の意図	<p>①全体を通して、本公演鑑賞の際の手助けとなる知識のレクチャーを行い、謡共演や狂言体験をする際の内容・目的を児童が理解しやすくなり、積極的な参加を見込めます。</p> <p>②能面や狂言面(紙製)で自分と違う存在に変身する、という観念を体感することで公演演目に共通する「面の掛け替えによる変身の演出」の理解につなげます。</p> <p>③本公演共演の為に準備・練習をし、児童等の積極的な本公演への期待を膨らませます(「謡」本公演共演の稽古、狂言の「ポーズ」発案)。</p>					
特別支援学校での 実施における工夫点	<p>参加生徒の特徴を考慮し、解説を省き、体験に重きを置いた内容に変更します。</p> <p>具体的には、体を動かす摺り足体験や能面体験の種類を充実させ、素手で触れる能面などを用意します。</p> <p>謡体験は、息の吸い方大きな声の出し方だけに集中させて、狂言の「笑い方」等、複雑でない身近な内容に変更します。</p> <p>「狂言体験～仏像に変身」は、工作をしなくてすむように印刷用紙の大きさをB5ほど(能面と同じ大きさ)にし、狂言の型に捉われない形で実施いたします。</p>					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

リンク先	No.2	【公演団体名 夙川能舞台瓦照苑 】
<p>項目内容</p> <p>本公演演目</p>	<p>別添参照箇所(本公演演目の詳細)</p> <p>第1部 能と狂言ってな～に? ・はじめのご挨拶</p> <p>・「能・狂言ってな～に？」 能と狂言の違い、囃子の説明を行います。</p> <p>①ひな祭りの「五人囃子」や「初詣」「七五三」「お墓参り」等、児童の慣れ親しんでいる内容から、能の楽器や「神様」「仏様」への中世の捉え方等、公演を観るにあたって必要な知識を教授します。</p> <p>②雰囲気がいかに違う?～能の「舞」と狂言の「舞」の一部を鑑賞～ 能と狂言について、登場シーンや舞の雰囲気の違いを囃子の演奏を入れて鑑賞してもらうことで分かりやすく伝えます。</p> <p>・狂言「仏師」のお話と鑑賞 狂言あらすじを現代語の寸劇形式で低学年の児童にも理解できるよう伝えます。その際に、上演中に行われる仏像のポーズは、児童が考案したものであることを伝え、狂言「仏師」を上演します。</p> <p>～休憩(10分程度)</p> <p>第2部 半能「大会」鑑賞 (プロジェクター使用) ・能開演の儀 ～謡に挑戦!老松を謡ってみよう～ 祝言謡「老松」の一節を練習した後、江戸期より続き、現在も野外能でよく行われる「能開演の儀(能奉行舞台改め)」を行います。具体的には、和装(袴姿)した代表者1名(教師または児童・生徒)の「～(学校名)能楽公演、お能始めませい!」という声を合図に、全校児童・生徒で「老松」を謡います。 ※舞台後方に歌詞を投影。</p> <p>・あらすじ解説 紙芝居形式(プロジェクターを使用)で「大会」のあらすじを解説・復習します。 また公演に用いる作り物の「獅子の座」(お釈迦様の椅子)を舞台に配置して説明をする際、「校長先生のふりをする生徒のお話」という身近なシチュエーションに置き換え、あらすじを説明します。 解説が終わる頃、通常の公演にのっとなって、お調べ(楽器の調律)が流れ、いよいよ舞台の幕が上がります。</p> <p>・半能「大会」鑑賞 ※演能中に解説の際のイラストが場面に対応して表示され、鑑賞者の内容の理解を深めます。</p> <p>終演後は、装束をつけたままの演者全員が整列してメッセージを送り、児童との挨拶で終了します。</p>	  <p>能開演の儀 イメージ</p>  <p>半能「大会」</p>  <p>狂言「仏師」</p>

リンク先	No.3	【公演団体名 夙川能舞台瓦照苑 】
<p>項目内容</p> <p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>別添参照箇所(ワークショップ実施形態及び内容の詳細)</p> <p>「たのしくまなぼ！能・狂言」 第一部:能パート</p> <p>1.挨拶と能の説明 能面の鑑賞から興味を引き、能の歴史、成り立ちをわかりやすく説明し、以降の体験につなげます。</p> <p>2.能の動きって？～身体の揺れない動き方 仕舞「高砂」を鑑賞し、その動き方の特徴を児童に質問して確認します。そこから能が武士の影響を受けていることを説明し、隙を見せない動き方、「カマエ」「ハコビ」(能の基本の歩き方)等を体験します。</p> <p>3.謡体験 能の基本である呼吸法や発声法等から舞台上の所作までわかりやすく伝え、本公演共演の為の祝言謡「老松」の稽古をします。</p> <p>4.能面体験～いろいろな物語の主人公に変身～ 生徒代表者数名に能面をかけてもらい、様々な能の物語を伝え想像してもらいます。その中で、能「大会」の能面を用いて、あらすじを解説します。</p> <p>第二部:狂言パート</p> <p>5.能と狂言の違い 能がシリアスな内容、狂言がコミカルな内容という原則のもと「笑い方」「雷を落とす」等、動き方や表現の仕方の違いを楽しく鑑賞してもらいます。</p> <p>6.狂言体験～仏像に変身？ 狂言「仏師」で、すっぱが「仏像」に変装する時の『お多福』の面を児童全員が各々作ります。そして その面をつけて、本公演で実際に行われる「すっぱが仏像に変装する」やり取り(男側、すっぱ側の両方)をゲーム要素を入れて体験します。その際、自ら考えた仏像のポーズを自由に表現してもらいます。その中からいくつかのポーズを選択し、実際の公演に取り入れます。</p> <p>7.終わりのごあいさつ</p> <p>※途中に10分休憩有 希望者は能面体験や能楽師とのフリートークを行えます(ふれあいタイム)</p> <p>※シテ方、狂言方にて訪問します。</p>	  

【夙川能舞台瓦照苑】主な出演者

○シテ方

上田 拓司：シテ方観世流準職分。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部長。

上田照也、大槻文蔵に師事。

平成 18 年 上田兄弟会で神戸ブルーメール賞団体受賞。

平成 20 年 文化庁芸術祭 新人賞受賞。

平成 24 年 文化庁芸術祭 優秀賞受賞。

令和 1 年 兵庫県功労者表彰

令和 2 年 文化庁芸術祭 優秀賞受賞（瓦照苑にて団体受賞）。

有限会社瓦照苑代表

上田 貴弘：シテ方観世流準職分。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

下川 宜長：シテ方観世流準職分。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

上田 大介：シテ方観世流準職分。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

笠田 昭雄：シテ方観世流準職分。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

藤谷 音彌：シテ方観世流準職分。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

藤井 丈雄：シテ方観世流。能楽協会神戸支部所属。

上田 宜照：シテ方観世流。

笠田 祐樹：シテ方観世流。

上田 顕崇：シテ方観世流。

伊藤 裕貴：シテ方観世流。能楽協会名古屋支部所属。

○ワキ方

江崎欽次郎：ワキ方福王流。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

十一世江崎金治郎（現：江崎正左衛門）に師事。平成 27 年『十二世江崎欽次郎』襲名。

○狂言方

善竹 隆司：狂言方大蔵流。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会大阪支部所属。

善竹 隆平：狂言方大蔵流。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会大阪支部所属。

善竹 忠亮：狂言方大蔵流。能楽協会神戸支部所属。

牟田 素之：狂言方大蔵流。能楽協会神戸支部所属。

岡村 和彦：狂言方大蔵流。能楽協会神戸支部所属。

○囃子方

野口 亮：笛方森田流。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会大阪支部所属。

古田 知英：小鼓方幸流。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

大村 滋二：大鼓方大倉流。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。

中田 弘美：太鼓方金春流。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会大阪支部所属。

※日程により、一部出演者が変更になる場合がございます。



たのしくまなぼ

能って知ってる？狂言ってな～に？

日頃触れる機会の少ない日本の伝統芸能に挑戦！
ただ観るだけでなく、実際に大きな声を出して、
みんなで身体を動かして、じっくりたのしく体験してから、
本物の舞台を鑑賞します。

みんなで楽しく学んでから、
本物の舞台を鑑賞します。

たのしくまなぼ！能・狂言

- ・挨拶と能の説明 (ワークショップ約100分)
- ・仕舞鑑賞
- ・能の動きって？～身体の揺れない動き方
- ・能面体験～いろいろな物語の主人公に変身～
- ・謡体験
- ・狂言体験～仏像に変身？
- ・終わりのご挨拶

ワーク
ショップ
約100分

お面で変身!?～能楽鑑賞

第1部 能と狂言ってな～に？

- ・はじめのご挨拶
- ・能と狂言ってな～に？
- ・狂言「仏師」のお話と鑑賞
～休憩(10分程度)

第2部 半能「大会」鑑賞

- ・能開演の儀～「老松」の謡に挑戦！～
- ・半能「大会」のお話と鑑賞

本公演
約100分



狂言

能

狂言「仏師」(あらすじ)

自宅に御堂を建てた男は、仏師に仏を造ってもらおうと都に出かけ、仏像を「買いたい」と大声で言い回ります。すると自分は仏師だというすっぱ(嘘つき)が近寄ってきました。男は大喜

びし、早速仏像を注文します。

次の日、完成した仏像を見に行ったら男。素晴らしい出来栄えのその仏像、実はすっぱが変装したもので…。すっぱの「仏師」と「仏像」の「1人2役」がわかり易く楽しい演目です。

は「お釈迦様の説法が見たい」というので、天狗は「絶対にありがたがって手を合わせたりしないように」と約束させて姿を消します(省略部分)。

天狗がお釈迦様に化けて説法を始めると、お坊様はあまりのありがたさに手を合わせて拜んでしまいます。すると、「正直なお坊様をもてあそぶとは何事か」と怒った仏教守護の神様「帝釈天」が駆けつけて、天狗をこらしめます。怒られるのが嫌な天狗は暫く争いますが、最後は平身低頭謝り、自分の住まいへ逃げ帰って行くのでした。

半能「大会」(あらすじ)

比叡山に住むお坊様に助けもらった天狗は、恩返しをしたいと山伏の姿になって、修行中のお坊様の元を訪ねます。「何か望みがあれば言ってください」と伝える山伏姿の天狗にお坊様

きょうげん 狂言
はんのう 半能
ぶっし「仏師」
だいえ「大会」

鑑賞
しよう



【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	H110	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽	ブロック	H	区分	A区分
公演団体名	夙川能舞台瓦照苑				制作団体名	有限会社 瓦照苑			

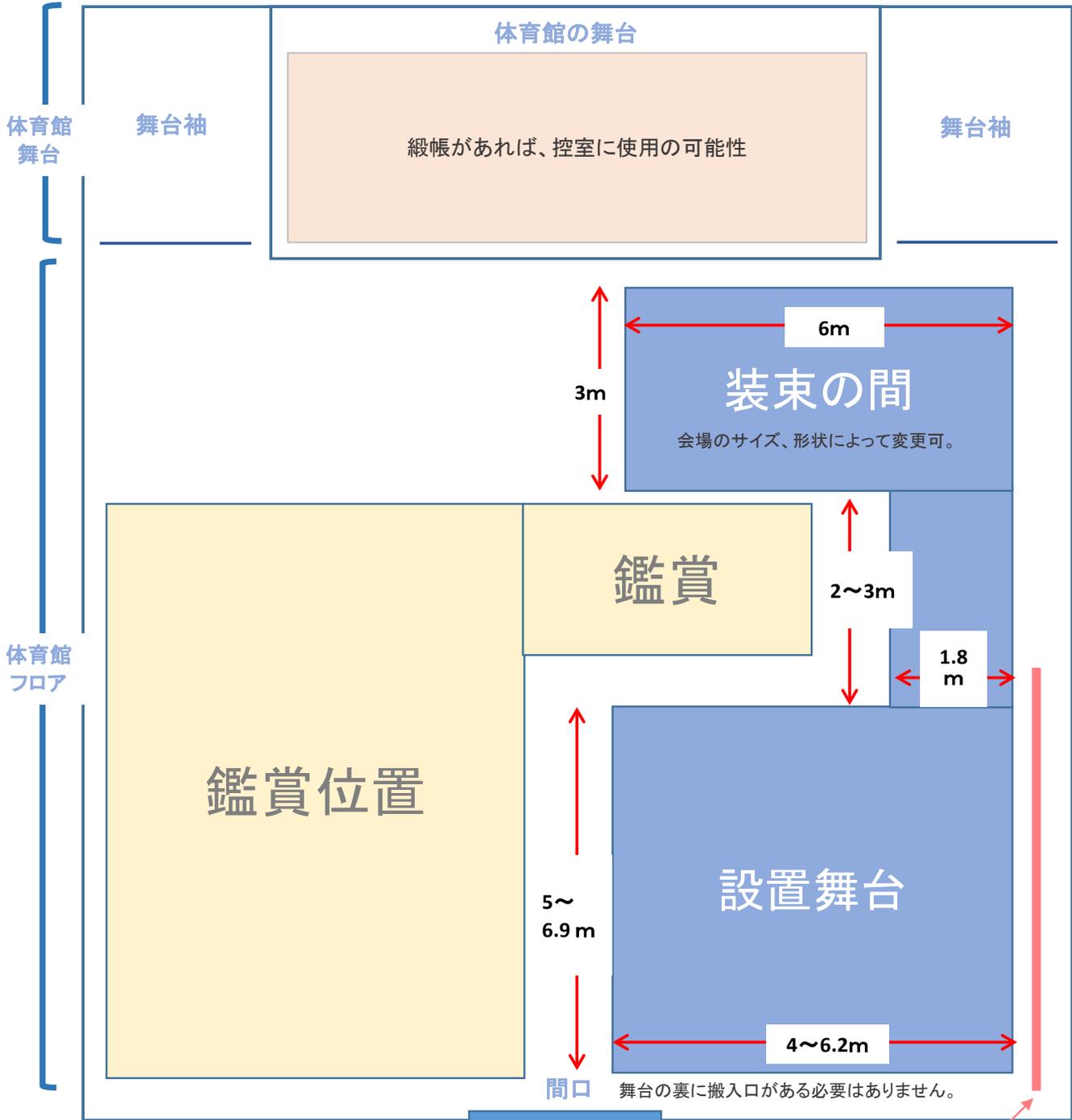
① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談	
控室について	必要数*	1室	条件		ステージを公演で使用しない場合は、ステージ上でも可(緞帳要)。電源コンセント1つ要。			可	
搬入について	来校する車両の大きさや台数*		バン	1台	大型バス	1台		可	
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細		前泊無しで出演者が各自で向かう場合は、乗用車数台分の駐車スペースが必要						
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ		バン1台					不可	
	搬入車両の横づけの要否*		要					可	
	横づけができない場合の搬入可能距離*		10m以内					可	
	搬入経路の最低条件		・可能な限り、階段のない経路が望ましい(屋根があれば尚良し)					可	
	理由		・舞台設営用の木材を搬入するため						
	設置階の制限*		問わない					—	
	搬入間口について 単位:メートル		幅	1.5m	高さ	1.8m		可	
WSIについて	参加可能人数	200名程度まで					可		
	学年の指定の有無*	なし	指定学年*				可		
	所要時間の目安 単位:分	90～110分(時間割に合わせます)					可		
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間		※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。						
	鑑賞可能人数		500名程度まで					可	
	舞台設置場所*		ステージ上への設置・フロアへの設置ともに対応可能					可	
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	13m	奥行	6.2m	高さ	指定なし	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保*		要					不可
		舞台袖スペースの条件*		舞台との段差がないこと					可
		緞帳*	不要		バトン*	要		可	
	遮光(暗幕等)の要否*		不要		理由			可	
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動*		不要		※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。		可	
		ピアノの事前調律*		不要					可
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況*		問わない				可	
	公演に必要な電源容量		30A		※主幹電源の必要容量			可	
	その他特記事項							応相談	
ステージを上演舞台として使用する場合は、緞帳不要、ピアノ移動要。							可		
フロアに舞台を組んで、ステージを控室として使用する場合は、緞帳要。							可		
舞台について、必要な広さはステージの場合、6.6m×3.8m、フロアの場合、最大13m×6.2m、最小10m×4m							可		

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	1.5m	高さ	1.8m
搬入車両の横づけの要否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		10m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



横づけできない場合は以下のルートが望ましい
 1. ルートが平坦である
 2. 距離が短い
 ※屋根があれば尚良し

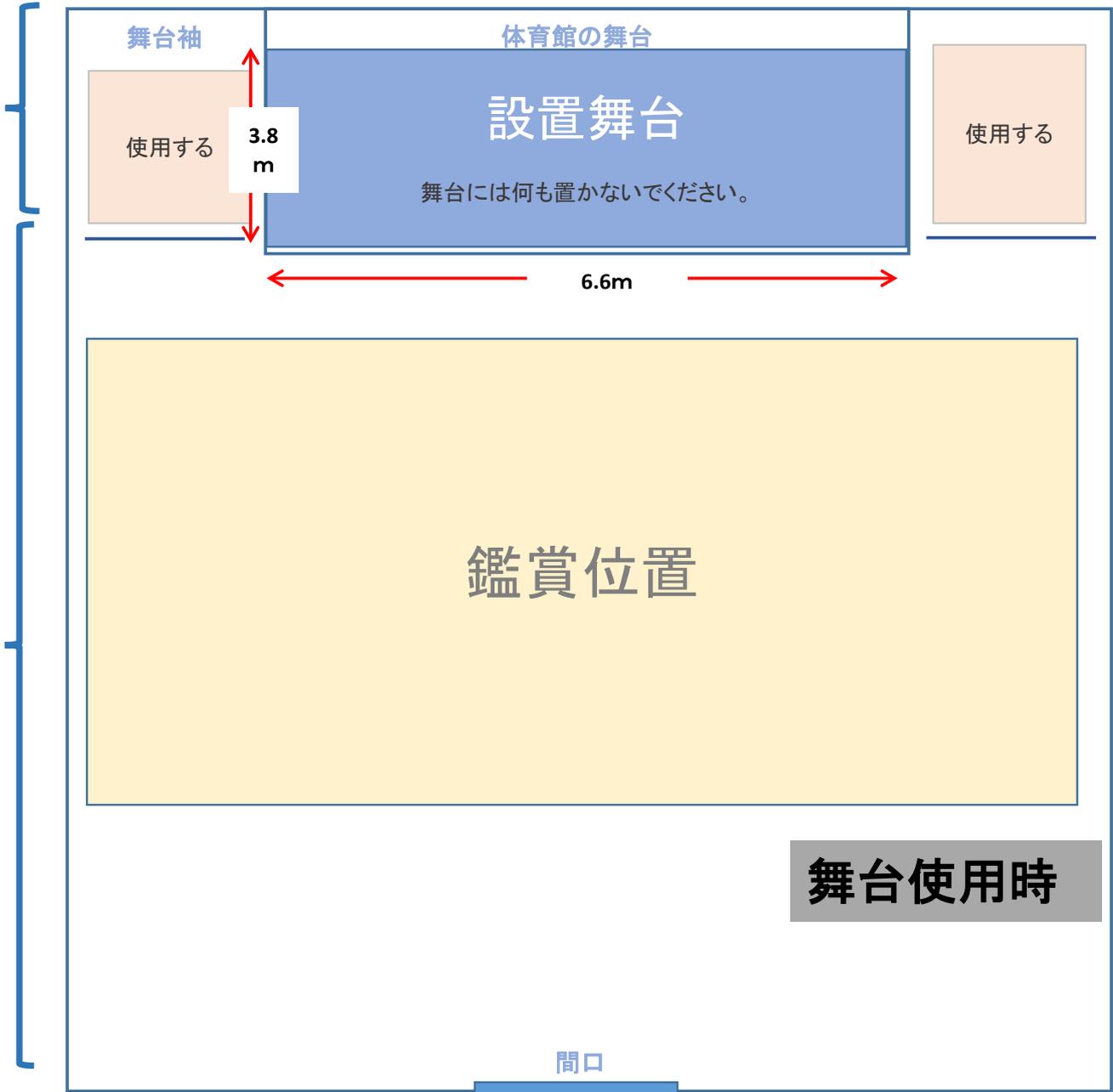
幕が吊れるバー、手すり等
 (無くても良い)

フロア使用時

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	1.5m	高さ	1.8m
搬入車両の横づけの要否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		10m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



横づけできない場合は以下のルートが望ましい

1. ルートが平坦である
 2. 距離が短い
- ※屋根があれば尚良し

